

児童英語教育における絵本

(1) Tasha Tudorの初期の絵本

On Picturebooks in Teaching English to Children (1) The Early Picturebooks by Tasha Tudor

(2006年3月31日受理)

橋内 幸子 垣見 益子 佐生 武彦
Sachiko Hashiuchi Masuko Kakehi Takehiko Saiki

Key words : 児童英語教育, 絵本, Tasha Tudor

抄 録

日本の小学校英語活動における絵本の重要性を鑑み、本稿では現代アメリカの挿し絵画家であり、絵本作家であるTasha Tudorの作品を取り上げ、前半部分では彼女の絵本制作と絵本の内容について、1970年代までの経緯を辿った。後半部分は、彼女による絵本、*A Is for ANNABELLE : A DOLL'S ALPHABET* (1954), *I is One* (1956), *Around the Year* (1957), *A Time to Keep* (1977) の絵と英語表現が、現在の日本の小学校における英語教育現場において、どのような要素を持つが故に活用できるかについての紹介である。なお、クラスでの具体的な使い方については、次回にしておく。

I. 序 論

Tasha Tudor(1915～)(以下、ターシャ・チューダーと表記する)は、現代アメリカの代表的な絵本作家のひとりである。90才を越えた現在まで、19世紀のアメリカの風景や人々の生活を中心とした絵本を数多く制作してきた。彼女は、絵本の内容に合わせて、絵は水彩画の技法を用い、文章の数も短いものから、長いものまで、万人が楽しめる作品を90冊以上も出版している。その業績に対して、アメリカ図書館協会が1938年に優れた絵本に対して与えるために制定したコルデコット賞が、二度にわたって授与された。

コルデコット賞の最初の受賞作品は、イギリスの伝承『マザーグース (*Mother Goose*)』(1944)で、Oxford University Pressから出版されたものである。三宅興子著『イギリス絵本論』(1994)によれば、「マザーグース」は、「絵本作家であれば、一度は必ず試みる伝承の世界」である。ターシャの絵本は、アメリカは19世紀当時の服を着た子供たちが、周囲の動物たちとともに描かれ、そ

の無邪気な風情と伝承の表現がマッチして、「アメリカ版マザーグース・ワールド」を形成している。第二回目のコルデコット賞授賞作品は、子どもたちに、絵とイメージを通じて、数を示した *I is One* (1956) であった。

また、アルファベットの絵本も、欧米の子どもたちにとって、楽しく文字を学べる媒体である。ターシャ・チューダーの *A Is for ANNABELLE* (1954) が、その種類に該当する。女の子が好きな人形をモデルに、アルファベットとその文字が使われている語を、見開きで2ページずつ描いていったものである。

そして、一年の月や季節、年中行事、祭日、などの絵本も教育上、必要であり、ターシャ・チューダーも数冊発表している。*Around the Year* (1957) は、一年の12ヶ月について、見開きで4ページがあてられている。イラストには、アメリカの北東部ニューイングランドの田園風景を背後に、大人や子ども、周囲の動物や植物など、月毎の特徴が表現されている。また、*A Time to Keep* (1977) は、アメリカの祭日や休日を中心に、祖母が孫娘にせがまれて、孫の母の時代の様子を語る形式で絵本

が構成されている。

ターシャ・チューダーの絵本は、他にも興味あふれるものが多いが、本稿では、児童英語教育に関して、有効に使用できるものを選び、どのような使い方が可能かを検討するものである。

II. ターシャ・チューダーの絵本の世界

1. 絵本作家としてのターシャ・チューダー ～ 1970年代まで～

(1) ターシャ・チューダーが挿し絵を描くまで

ターシャ・チューダーは、19世紀の1830年代におけるアメリカのライフスタイルを実践し、アメリカ北東部の自然の中に生きる喜びを、自作の絵本や挿し絵に表現してきた。彼女の信念は、仕事や時間に追われて疲弊した、世界の先進国の現代人の精神に強い印象を与え、古き良き時代へのノスタルジーを喚起している。前世紀からの資本主義体制と機械文明を引き継いだ21世紀の現在にあって、彼女は、バーモント州の山奥にある広大な土地に自己の理想とするライフスタイルを実現するための家と庭を造り、悠々自適の生活を送っている。18世紀風の農家のたたずまいを持つ彼女の家はコーギーコテッジと名付けられ、19世紀に使用されていたアメリカの古い調理家具や調度品が置かれている。一人住まいではあるが、コーギー犬や猫、山羊や鶏などを飼い、広大な庭をガーデニングの理想的な形で管理している。その様子は、2005年9月23日にNHK・HVで「喜びは創り出すもの～ターシャ・チューダー 四季の庭」として放映された。その映像は、日本人の心にも強いインパクトを与え、第一回の放映後、何回も再放映されたほどである。

彼女は、1915年にボストンの社交界の名家に生まれた。母の実家には、ラルフ・ウォルドー・エマソンなど、アメリカ文学のアメリカン・ルネッサンスを代表する人々が入りし、母も熟練した肖像画家であった。父は、造船技師として、優れた技術を持っていたが、ターシャが9才の時、両親は離婚したため、彼女は、両親の友人であるグエン・ミケルソンのもとに預けられた。非常に自由でボヘミアン的生活を送っていたグエンは、ターシャに創造の価値を教えた。なお、グエンは、アメリカン・ルネッサンスの小説家として有名なナサニエル・ホー

ソンの孫娘である。ターシャは若い時から、社交界よりも自然を好み、将来は農場を持って自給自足の生活を送りたいと考えるようになっていった。十代の時、おじから牛をプレゼントとして貰った時のうれしそうな写真も印象的である。

画家としての母も、ターシャが小さな子ども時代から、彼女に大きな影響を与えており、将来、挿し絵画家になる夢を持ったのも母のそばで手伝いをしていたからである。その後、ターシャは短期間、ボストンミュージアム美術学校に通ったことはあるが、ほとんど独学で絵を描くための技術を身につけたものと思われる。

(2) 挿し絵画家・絵本作家としてのターシャ・チューダーの出発 ～ *Pumpkin Moonshine*, *Becky's Birthday*, *Becky's Christmas*, *Take Joy! The Tasha Tudor Christmas Book*, *Corgiville Fair* など～

1938年に結婚後、夫の要求で生活のために童話の挿し絵を描き始めたターシャは、ニューハンプシャーの18世紀に建てられた古い農家を買ひ、4人の子どもを育てながら、イギリスの挿し絵画家の作風に似たタッチで制作を続けた。その後、彼女の挿し絵には、花を始めとする楽しい飾り罫が付けられ、まるで、額縁のような印象と華やかさが加わった。1940年代から、『マザーグース』やアンデルセンの童話などに挿し絵を描いた後、1950年代の始めから、自分でストーリーを創作し、挿し絵を付けて、出版するようになった。その時期に制作された作品としては、*The Doll's Christmas* (1950) で、チューダー家のクリスマス行事をモチーフにしたものである。

1938年に、Oxford University Pressから出版された作品に、*Pumpkin Moonshine*がある。これは、コネティカット州に住む祖母を訪ねてきた小さな女の子、Sylvie Annが、ハロウィーンに使う大きなカボチャを求めて出かけ、みつけた大きなカボチャが転がっていく間に起こす騒ぎや、祖父が作ってくれたカボチャのランタン (pumpkin moonshine) で楽しい時を過ごしたことが描かれる。その後、ターシャの自然を愛する姿勢が見える文で締めくくられている。

Sylvie Ann saved the pumpkin seeds. Next spring she planted them. The vines grew up and ran all over the cornfield, with lots of pumpkins

on them, just a waiting to be made into pumpkin pies and Pumpkin Moonshines to please good little girls like Sylvie Ann.¹

つまり、Sylvieが、そのカボチャの種を次のハロウィーンのために庭に埋め、翌年の春、そのかぼちゃは大きく育ち、多くの実をつけた。Sylvieのような良い子が、カボチャパイやカボチャのランタンを作って、ハロウィーンを祝うために役だったことなどを描いたストーリーである。

絵本や児童文学作品が創られるきっかけが、作者に近い関係にある子どもの存在による場合があり、その場合は、傑作になる場合が多い。Lewis Carroll (1832～1898) による*Alice's Adventures in Wonderland* (1865)、Beatrix Potter (1866～1943) が、病気の男の子を元気づけるために描いた*The Tale of Peter Rabbit* (1902)、息子のために創作したA. A. Milne (1882～1956) の*Winnie-the-Pooh* (1926) などがまず挙げられよう。いずれも、挿し絵が付いて大ヒットになり、版を重ねてきた。ターシャの*Pumpkin Moonshine*も、夫の小さい姪のためのクリスマス・プレゼントとして作られ、この絵本は、当時のOxford University Pressの新しい編集者が気に入った。以後16年間、彼女の絵本はOxford University Pressから出版された。

ターシャは1961年に離婚し、その後の10年間、精力的に仕事をした。他の児童文学作品の挿し絵を描いたり、クリスマスに因む自分の絵本を制作したりこの時期は、ターシャのイラストレーター、及び絵本作家としての名声を高める時期であった。挿し絵としては、Frances Hodgson Burnett (1849～1924) の*The Secret Garden* (1911)、Kenneth Grahame (1859～1932) の*The Wind in the Willows* (1908) をそれぞれ、1962年と1966年に挿し絵を付けている。

また、自分の絵本としては、娘のベサニーをモデルにした2冊の絵本、*Becky's Birthday* (1960) と *Becky's Christmas* (1961)、及び *Take Joy! The Tasha Tudor Christmas Book* (1966) があり、ターシャの本として、有名なものである。この中には、クリスマス・シーズンに彼女の一家が歌ったクリスマス・ソングや、ストーリーが収められている。その挿し絵は、19世紀イギリスの絵本画家、

Kate Greenaway (1846～1901) の絵本に描かれている子供たちの風情によく似ている。

ターシャのライフスタイルが現代の我々の心にアピールしているように、*Becky's Birthday*でのイベントは、夢とうれしい驚きが詰まったバースデー・パーティとして、出版当時、人々の心に記憶された。最も印象的であったのは、実際にターシャが娘のベサニーの誕生日に企画して、surpriseとして皆の喝采を浴びたものである。ベサニーの誕生日は8月で、そのパーティは夜、近くの川のほとりで催された。花とろうそくに囲まれたバースデーケーキは、小さな筏に乗せられ、他に花とろうそくを乗せた筏を艦隊のように引き連れ、川面を流れてくる。絵本では、夜の川の上のバースデーケーキが、ろうそくの光に照らされて、子どもたちの前に流れてくる様子が描かれている。もちろん、ろうそくの光に照らされたバースデーケーキを見た、子供たちの喜びと驚きの様子を描くのも忘れられていなかった。

また、ターシャの描くクリスマスは、19世紀ニューイングランド風のクリスマスとして、有名になり、カードとしても人々の手に渡った。*Becky's Christmas* (1961)、*Take Joy! The Tasha Tudor Christmas Book* (1966)、*The Christmas Cat* (1976) などでは、アメリカの田園を背景に祝われるクリスマスの様子、クリスマス・ソング、伝統的な手作り料理のレシピ、などが描かれている。

そして、1971年には、ターシャのお気に入りのコーギー犬が主人公の傑作、*Corgiville Fair* が出版され、アメリカにコーギー犬を普及させるきっかけとなった。ターシャの絵本の中で、茶色の短毛、短い脚、人なつこい目を持ったコーギー犬が住む村は、19世紀アメリカの村を思わすたたずまいを持っている。村は、ニューハンプシャー州の西とバーモント州の東の間に位置し、教会、宿屋、郵便局、商店、そして南北戦争の記念碑がある。住人(?) は、コーギー犬、猫、うさぎ、そして、ボガート(北欧民話で有名なトロール) である。アメリカ東部に特有な屋根のある橋を通ると、そこはコーギービル村。

登場する動物達は、全て擬人化され、子どもたちにとって、夢のような村でもある。

The story is about one of Corgiville's leading families, the Bigby Browns, and about the

Corgiville Fair, which, next to Christmas, is the most exciting event of the year.

The Browns live on a farm outside the village. There are Mr. and Mrs. Brown and the three puppies: Caleb, Cola, and Ketey.²

これらのコーギー犬たちが上着を着て、お祭りを催し、伝統的な競馬やパイの速食い競争、そして、最後に花火を楽しむ。元気の良い、頑張りやの男の子として描かれている子犬、Calebが競馬に出るために乗るのは、山羊のJosephine。この村の競馬レースには、山羊が馬の代わりに出るのである。Calebは、猫のEdgar Tomcatの悪巧みには出会うが、100ドル銀貨が優勝者に与えられるレースには優勝する。

P.S. Caleb gave Mert fifty dollars to make needed improvement in his fireworks factory. The other fifty he put the bank toward college.³

「Calebは、優勝金100ドルの半分を、花火工場での改良用に、そして、半分を将来の進学費用に銀行預金にした」という、‘追記’のオチには、読者は微笑を禁じ得ない。挿し絵は、緻密に細部まで描かれ、祭りに参加したコーギー犬たちの興奮や村のにぎわいが、実際に伝わってくるようである。

III. ターシャ・チューダーの絵本を授業で使う

(1) 絵本の本質について

日本の小学校英語活動で、絵本を使うためには、まず、絵本とは何かを知り、その本質に基づく使用を心がける必要がある。絵本についての数冊のreference bookをひもとくと、繰り返し引用されている定義がある。Evelyn Arizpe & Morag Stylesによる*Children Reading Pictures* (2003), David Lewisの*Reading Contemporary Picturebooks* (2001) などには、Barbara Baderの定義が記述されている*American Picture Books: From Noah's Ark to The Beast Within* (1976) からの引用がある。Baderによる、picture bookの古典的な定義は、以下のとおりである。

A picture book is text, illustrations, total design; an item of manufacture and a commercial product; a social, cultural, historical document; and foremost an experience for a child. As an art form it hinges on the interdependence of pictures and words, on the simultaneous display of two facing pages, and on the drama of the turning page.⁴

つまり、絵本とは、まず、読まれる文字と見られる絵が統合的にデザインされたもので、制作と流通の過程を経て、社会的・文化的・歴史的資料となるものであり、とりわけ、児童にとっての一つの貴重な経験となるものである。作品としては、絵と語が相互に依存し合い、見開きの2ページが一度に見えることとページをめくることによりドラマが進展するものである。この定義は、必要充分条件とも言えるもので、絵本に関する構成と対象を包括的かつ的確に表現しているものである。

なお、絵本のカテゴリー別の分類としては、Denise I. Matulkaの*Picture This: Picture Books for Young Adults; A Curriculum-Related Annotated Bibliography* (1997) に示されている。Matsulkaは、絵本を以下の7つのカテゴリーに分類している。つまり、

1. Alphabet books
アルファベットを教えるための絵本類
2. Concept books
形や色、時間などの概念を教えるもの
3. Counting books
数や簡単な計算を教える目的を持つ絵本類
4. Easy readers
大人の助けを得ないで読めるもので、普通の絵本よりサイズが小さい。
5. Picture storybooks
絵よりもテキストの部分が多いもの
6. Toy books
いわゆる仕掛け絵本類
7. Wordless books
文字の少ない、又は無い絵本で、子どもたちの音声表現や文字への感性を伸ばすもの⁵

以上、英語教育現場では、グレードに応じて、カテゴリー

別の絵本を選択し、英語活動を楽しくすることも可能である。

そして、世界に関するあらゆる知識や情報を、絵本の形で子どもたちに与えるために描かれたものの題材に関する分類に関しては、Patricia J. Ciancioloの*Informational Picture Books for Children* (2000) を参照することにより、絵本の世界の広範さが理解できる。その分類の内訳は、The Natural World, Numbers and Arithmetic, The Physical World, Finding New World, Children and Families, Peoples and Cultures, Language, Arts and Crafts,⁶の8つであり、その下にさらにテーマ別に細かい分類がなされている。紹介されている絵本には、それぞれ与えるのに適当な年令も示され、この種類の絵本がアメリカではどのように教育に使われているかが理解できよう。

また、アメリカで出版された絵本を中心に、内容による分類を試みたものとして、Janet Schulman編の*The 20th Century Children's Book Treasury* (1998), Connie Ann Kirk編の*Companion to American Children's Picture Books* (2005), などがある。後者には、ターシャの絵本が二冊リストアップされている。*Mother Goose* (p. 170) と *I is One* (p. 185) である。

*Mother Goose*の項目には、この絵本が、それまでマザーグース関係でコルデコット賞を得た3冊の絵本の一つであることが記述されている。そして、*I is One*の項目には、ターシャの意見、つまり、「この本は子どもたちに、数の数え方を教えるとともに、数を数えることに楽しみを見いだすよう手助けをする」

(Tudor said that the book not only helps teach children how to count but also expresses the pleasure in the act of counting itself)と記載している。⁷

(2) 児童英語教育現場で使える、Tasha Tudorの絵本について

まず、日本の小学校英語活動の現場では、どのような絵本が推奨されているのであろうか。松香洋子篇『小学生は英語が大好き2 実践編』で紹介されている推薦絵本リストには、次の12冊の絵本が、各学年別に記載されている。⁸

1 学年 :

1. *Brown Bear, Brown Bear, What Do You See?*
2. *Bears in the Night*

2 学年 :

3. *From Head to Toe*
4. *The Foot Book*

3 学年 :

5. *In a People House*
6. *The Berenstain Bears and the Spooky Old Trees*

4 学年 :

7. *The Very Hungry Caterpillar*
8. *The Little Red Hen*

5 学年 :

9. *The Lady with the Alligator Purse*
10. *I'll Teach My Dog 100 Words*

6 学年 :

11. *The King, the Mice and the Cheese*
12. *Life is Fun*

以上、いずれも英文にリズムと繰り返しがあり、楽しい絵がついているものである。

それでは、ターシャの絵本はいかなるものであろうか。以下、具体的な内容と英語表現、挿し絵などについて紹介しておく。

A. *A Is for Annabelle: A DOLL'S ALPHABET* (1956)

アルファベットを文字や音の基本とする国においては、子どもたちにアルファベットの文字と音を教えることが、まず教育の最初である。ターシャの*A Is for ANNABELLE: A DOLL'S ALPHABET*は、祖母の人形であるAnnabelleにまつわる物を通じて、子どもたちがアルファベットを学ぶように意図されている。左ページにアルファベットと、そのアルファベットで始まる語が文字と絵で示され、右ページにその語の修飾語句がこれも同様に、文字と絵で説明されている。絵と文字はターシャお得意の野(横長の楕円形)に囲まれ、クラシックなエレガントさが際だっている。

以下、文字表現を紹介しておく。

- A is for Annabelle / Grandmother's doll
 B for her Box / on the chest in the hall
 C for the Cloak / we take out with care

D for the Dresses / we want her to wear
 E for her Earrings / so quaint and so small
 F for her Fan / to use at the ball
 G for her Gloves / made of fine leather
 H for her Hat / with an elegant feather
 I for her India / whence came her shawl
 J is the Jacket / she wears in the fall
 K is for Kerchiefs / both frilly and plain
 L for the Locket / she wears on a chain
 M is her Muff / so warm and so cosy
 N is a Nosegay / a bright fragrant posy
 O is her Overskirt / worn with such grace
 P for her Parasol / all trimmed with lace
 Q is the Quilt / which covers her bed
 R for the Ribbons / she ties 'round her head
 S for her Slippers / to wear at the dance
 T for her Tippet / the latest from France
 U for Umbrella / with jet handle on it
 V for the Veil / she wears with her bonnet
 W - her Watch / to tell her the time
 X is the letter / for which live no rhyme
 Y is the Yarn / her stockings to mend
 Z is her Zither / and this is the end ⁹

アルファベットと、衣服などに関する語と絵が並び、人形と女の子の絵がそれぞれの語に対応して描かれている。カラーのページもあれば、白黒の鉛筆画で描かれたページもある。また、英詩の韻を意識して、各2行ずつ、脚韻を用いているのも教育的配慮が感じられる。ただし、現在ではあまり見かけないもの、あるいは廃れてしまって、全くなじみのないものもある。Muff, Overskirt, Tippetなどがそうで、また弦楽器のツィターは、民族性が強く、ギターに比べて知られていない恨みがある。

この絵本を使って、教室で英語活動をするためには、人形と(できれば、着せ替え用の)衣服が必要になる。または、教材提示装置を使用して、絵本を見せながら読み、衣服などの単語を確認し、人形を使わずに、生徒を使って、衣服に関する単語や簡単な英文を学習させることもできる。衣服は、現代の日本で着用されている物で良いと思われるが、アルファベットをこのように習っている

幼い子を外国でよく目にすることも事実である。筆者も、1995年から1年間、オーストラリアに滞在した時に、アジア系の小さな女の子が母親とともにバスの中で、このような英文が載っている本を見ながら、一生懸命に音読していた光景を目撃している。多民族国家オーストラリアでは、小さい頃から英語を学ぶことが死活問題でもあるからである。

B. *I is One* (1956)

第二回目のコルデコット賞授賞作品である、*I is One* は、ターシャ自身の言葉を待つまでもなく、子どもたちに、絵を通じて、数の概念を楽しく教える絵本である。*A Is for ANNABELLE: A DOLL'S ALPHABET*と同様、左ページに1から20までの算用数字と数の英語がついた物、右ページにはその語に続く修飾語句が示されている。

以下、絵本の英語表現を記しておく。

1 is one duckling / swimming in a dish
 2 is two sisters / making a wish
 3 is three swallows / up in the sky
 4 is four sheep / nibbling rye
 5 is five eggs / in a pretty round nest
 6 is six children / all dressed in their best
 7 is seven apples / on a little apple tree
 8 is eight daffodils / you are picking for me
 9 is nine red cherries / on a white china plate
 10 is ten numbers / Tom has written on his slate
 11 is eleven girls / dancing in a ring
 12 is twelve baby birds / learning how to sing
 13 is thirteen candles / upon a birthday cake
 14 is fourteen mallard ducks / swimming on
 a lake
 15 is fifteen roses / being made into a wreath
 16 is sixteen rabbits / playing on a heath
 17 is seventeen gourds / hanging up to dry
 18 is eighteen stars / twinkling in the sky
 19 is nineteen flowers / that little Jane has drawn
 20 is twenty geese / flying toward the dawn ¹⁰

以上、1から20までの数字と、その数字の数だけ示された動物や物、人間像など多彩な展開を示す絵が描かれて

いる。その上、各々の単語に続く表現には、簡単な形容詞や動詞、名詞などが使われ、前作よりもカバーする表現は格段に多くなっている。

C. *Around the Year* (1957)

ターシャ・チューダーの19世紀的ライフスタイルは、めぐる季節に合わせて、それぞれの特有な楽しみ方を可能にする示唆にあふれているが、彼女の絵本にも、一年の月や季節の変化を享受する姿勢が表れている。

Around the Year (1957)には、冬の1月から、12月にかけての風景や伝統的な行事が描かれ、その時々の人々の声や子どもたちの歓声が聞こえてきそうなイメージが我々の心に、古き良きアメリカを偲ばせてくれる。

小学校英語活動の目標の一つに、国際理解がある。国際交流もさることながら、絵本などで、その国の情景や季節行事などを、絵本で知ることが有効なことである。それに加えて、ターシャの絵本には、本来、子どもたちに確保されるべき、ゆったりした生活リズムを思わせる情景がある。

*Around the Year*では、以下のように、一年が描かれている。

January brings us coasting,
Taffy pulls and apple roasting.
Chill February brings the day,
When hearts and flowers we give away.
March promises the hope of spring,
In swampy peepers sing.
April sees the birds return,
Scatters showers on leaf and fern.
May brings us armfuls of delight,
Bird-song, warm sun and gardens bright.
In June comes summer's longest day,
Now meadows smell of new-mown hay.
Hot July brings picnic joys,
Firecrackers for girls and boys.
In August swallows southward fly,
Summer's warning, fall is nigh.
September brings the Country Fair,
Falling leaves, crisp autumn air.
October brings us Halloween,

When witches, ghosts and spooks are seen.
November brings good skating weather,
Thanksgiving gathers us together.
December brings glad Christmas cheer,
May joy be yours
Around the Year.¹¹

この絵本では、アメリカ北東部の田園風景の中で、子どもや大人が季節や生活を楽しむ様子を描いた絵が、英詩の背景を構成している。他の絵本同様、二行ずつ脚韻を踏んでいる。英語表現は、*A Is for ANNABELLE: A DOLL'S ALPHABET*や*I Is One*に比べると、多少語彙や文法などの点で、難しくはなっているが、ターシャの絵で内容理解は、小学校高学年では可能である。

D. *A Time to Keep* (1977)

1970年代後半に出版された*A Time to Keep* (1977)は、*Around the Year*よりも、英文の数も多く、挿し絵も多い絵本である。この絵本の内容設定は、幼い孫娘が祖母にせがんで、母親が自分のように小さい頃にはどのような一年を楽しんでいたかをお話してもらおうというものである。絵本のサイズは*Around the Year*より大きく、12ヶ月のそれぞれについて、まず、Mother Goose, William Shakespeare, Christina Rossettiなどの英文の引用があり、各月を彩るアメリカの祭日や祝日などが紹介されている。

例えば、4月では、以下のような英文が、4ページ構成で、5枚の挿し絵とともに、その月にある祭日や、人々の様子が説明されている。

April

April showers
Brings May flowers.
— Mother Goose

Easter week we all made pretty Eastger eggs.
and had hot cross buns for tea.
We always had the most wonderful Easter egg
tree with goose, duck, chicken, bantam,
and pigeon eggs.

On the very top were canary eggs.
 In April the new kids were let out to play
 in the warm spring sunshine.
 There were calves to feed
 and little chicks.
 And there were always gaggles of goslings.¹²

母子でイースターエッグを作る場面、友達を呼んでの
 エッグの飾り付け、その年に生まれた家畜の仔や雛に餌
 をやる子どもたちの姿が描かれている。その他の月の説
 明も同様の展開をしており、日常生活上の事物について
 の表現、つまり、名詞や形容詞、動詞などが挿し絵とと
 もに、声に出して読まれるべく、表記されている。

Ⅲ. 終わりに

絵本は、絵と文の併記により、描かれるストーリーの
 展開とテーマについての理解が容易になり、日本の児
 童英語教育の現場でも、その活用はさらに発展的に考
 慮されるべき時期に来ている。本稿では、アメリカの
 絵本作家であるTasha Tudorの作品について、1970年代
 までに限定して検討した。つまり、日本の児童英語教育
 の現場で使用できる絵本として、*A Is for ANNABELLE :
 A DOLL'S ALPHABET* (1954), *I is One* (1956), *Around
 the Year* (1957), *A Time to Keep* (1977) を採り上げた。
 以上の絵本に関しては、それぞれの絵が持つ19世紀的な
 情景の魅力とともに、外国語としての英語教育の現場
 でも、基本的な英語表現を教えることが可能な教材とし
 ての有用性があることを強調した。

現代においても、毎年、世界各地で膨大な数の絵本が
 出版されている。そこで、児童英語教育の現場で教える
 教師たちが教える内容に合わせて、絵本を手作りし、教
 室で児童と楽しみつつ、英語活動の一環として、活用す
 る機会が増えることが期待される。

注 記

1. Tudor, T: *Pumpkin Moonshine*. Oxford University Press, Oxford(1938) p. 34.
2. Tudor, T: *Corgiville Fair*. Little, Brown &

- Co., NY(1971) p. 4.
3. Ibid. p. 43.
4. Bader, B: *American Picture Books: From Noah's Ark to The Beast Within*. Macmillan, NY (1976) p. 1.
5. Matulka, D I: *Picture This: Picture Books for Young Adults; A Curriculum-Related Annotated Bibliography*. Greenwood Press, CT (1997) p. xii-xiii.
6. Cianciolo, P J: *Informational Picture Books for Children*, American Library Association, Chicago(2000) p. v.
7. Kirk, C A ed.: *Companion to American Children's Picture Books*. Greenwood Press, CT(2005) p. 185.
8. 松香洋子篇: 「小学生は英語が大好き 2 実践編」, 松香フォニックス研究所(2003) p. 142-43.
9. Tudor, T: *A Is for ANNABELLE : A DOLL'S ALPHABET*. Oxford University Press, Oxford(1954) p. 1-52.
10. Tudor, T: *I is One*. Oxford University Press, Oxford(1956) p. 1-40.
11. Tudor, T: *Around the Year*. Oxford University Press, Oxford(1957) p. 1-48.
12. Tudor, T: *A Time to Keep*. Macmillan, NY(1977) p. 15-18.

参 考 文 献

1. Arizpe E & Styles M: *Children Reading Pictures; Interpreting Visual Texts*. RoutledgeFalmer, London(2003).
2. Cianciolo P J: *Informational Picture Books for Children*. American Library Association, Chicago(2000).
3. Davis H: *The Art of Tasha Tudor*. Little, Brown & Co., NY(2000).
4. Kirk C A: *Companion to American Children's Picture Books*. Greenwood Press, CT(2005).
5. Lewis D: *Reading Contemporary Picturebooks;*

- Picturing Text. RoutledgeFalmer, London(2003).
6. 松香洋子篇: 「小学生は英語が大好き 2 実践編」, 松香フォニックス研究所(2003).
 7. Matulka D I: Picture This: Picture Books for Young Adults; A Curriculum-Related Annotated Bibliography. Greenwood Press, CT (1997)
 8. 三宅興仔: 「イギリス絵本論」, 翰林書房(1994).
 9. Schulman J: The 20th Century Children's Book Treasury. Random House, NY(1998).
 10. Stanton J: The Important Books; Children's Picture Books as Art and Literature. The Scarecrow Press, London(2005).
 11. Stephens J: Language and Ideology in Children's Fiction. Longman, London(1992).
 12. Tudor T: A Is for ANNABELLE: A DOLL'S ALPHABET. Oxford University Press, Oxford(1954)
 13. Tudor T: Around the Year. Oxford University Press, Oxford
 14. Tudor T: A Time to Keep. Macmillan, NY(1977).
 15. Tudor T: Corgiville Fair. Little, Brown & Co., NY(1971).
 16. Tudor T: 1 is One. Oxford University Press, Oxford(1956).